2017年度日本社会事業大学学内共同研究　挑戦的萌芽研究事業

時期区分による公立・私立児童養護施設の入所児実態の実証的研究

佐竹　要平（通信教育科・准教授）
有村　大士（学部・准教授）
永野　咲　（昭和女子大学・助教）
土橋　俊彦（世田谷区児童相談所開設準備課・副参事）
秦　　晴彦（鎌倉児童ホーム・園長）

１．研究目的

本研究では、戦後の混乱期から現在まで、社会的養護で重要な役割を担っている児童養護施設の中から、公立施設・民間施設の協力を得て、戦後70年間の入所児の基本属性を実証的に分析する。具体的には、入所児の生年月を基に、入所時・退所時の年月数を計算し、それぞれの時期における在園年月の推移等、入所児の実態を明らかにすることを目的としている。

さらに、措置変更種別等の分析を行い、公立・私立の児童養護施設のそれぞれの役割の変遷を明らかにする。

２．研究の視点および方法

本研究では、公立の児童養護施設Ａ園、民間の児童養護施設Ｂ園に協力して貰い、戦後から現在までの約70年間の台帳から、入所児の実態把握し、統計的な分析を行えるようにする。なお、台帳の入所児の入力にあたっては、当該施設に勤務する職員にID化の作業を行って貰い、個人を特定できない形で慎重に取り扱うこととしている。分析においては、時系列を反映した分析を行えるようデータベースを構築し、年代別に特徴を分析する。

３．倫理的配慮

本研究調査は、入所児に関する情報は、施設側によってID番号化し管理し、個人が特定できないようにしている。なお、本調査は、日本社会事業大学社会事業研究所研究倫理委員会の審査を受け了承を得ている。

４．研究結果

(1)全期間の入所児の概況

Ａ園は、1946年９月に公立児童保護施設として開設し、2017年３月末に閉園した。約70年で入所児数は、1,485名である。内訳は、男児878名（59%）、女児605名（41%）、不明２名である。

入所児の入所年齢別では、「１歳～６歳」568名（38%）、「７歳～12歳」550名（37%）、「13歳～15歳」254名（17%）、「16歳～17歳」24名（２%）、「不明」89名（６%）となっている。「１歳～６歳」での入所が最も多くなっている。平均年齢は８歳５ヶ月となっている。

入所児の退所年齢別では、「１歳～６歳」297名（20%）、「７歳～12歳」356名（24%）、「13歳～15歳」467名（31%）、「16歳～20歳」268名（18%）、「不明」99名（７%）となっている。「13歳～15歳」での退所が最も多くなっている。平均年齢は12歳６ヶ月となっている。

入所児の在所期間別では、「１年未満」436名（29%）、「１年～３年」539名（34%）、「４年～９年」405名（31%）、「10年～16年」95名（３%）、「不明」12名（１%）となっている。「１年未満」が

最も多くなっている。平均在所期間は、３年５ヶ月となっている。

入所児の退所先の区分では、「家庭引取り」676 名（57%）「自立（就職・進学)」197 名（17%)、「逃走」65 名（６%)、「児童養護施設」65 名（６%)、「知的障害施設」65 名（６%)、「里親」63 名（５%)、「児童自立支援施設」21 名（２%)、「その他」24 名（２%）となっている。「不明（記載なし)」が 376 名となっている。

Ｂ園は、明治期に篤志家が始めた育児施設である。創立から 100 年以上が過ぎている民間の児童養護施設である。1946（昭和 21）年から 2017（平成 29）年までの約 70 年で入所児数は 1,257 名（現在の在所児は対象外）である。内訳は、男児 659 名（52%)、女児 598 名（48%）である。

入所児の入所年齢別では、「０歳～６歳」769 名（61%)、「７歳～12 歳」383 名（31%)、「13 歳～15 歳」79 名（６%)、「16 歳～17 歳」９名（１%)、「不明」８名（１%）となっている。「０歳～６歳」での入所が最も多くなっている。平均年齢は６歳５ヶ月となっている。

入所児の退所年齢別では、「０歳～６歳」399 名（32%)、「７歳～12 歳」294 名（23%)、「13 歳～15 歳」369 名（29%)、「16 歳～21 歳」187 名（15%)、「不明」８名（１%）となっている。「０歳～６歳」での退所が最も多くなっている。平均年齢は 10 歳５ヶ月となっている。

入所児の在所期間別では、「１年未満」260 名（25%)、「１年～３年」237 名（22%)、「４年～９年」373 名（35%)、「10 年～16 年」180 名（17%)、「不明」４名（１%）となっている。「４年～９年未満」が最も多くなっている。平均在所期間は、４年５ヶ月となっている。

入所児の退所先の区分では、「家庭引取り」724 名（60%）「自立（就職・進学)」325 名（27%)、「里親」26 名（２%)、「死亡」14 名（１%)、「知的障害施設」11 名（１%)、「病院」９名（１%)、「逃走」８名（１%)、「児童自立支援施設」３名（０%)、「児童養護施設」２名（０%)、「その他（措置変更)」42 名（３%）となっている。「不明（記載なし)」が 41 名となっている。

⑵第１期（1946 年度～1967 年度）の入所児の概況

Ａ園の第１期の入所時数は、579 名である。内訳は、男児 364 名（63%)、女児 213 名（37%)、不明２名である。

入所児の入所年齢別では、「１歳～６歳」116 名（20%)、「７歳～12 歳」227 名（39%)、「13 歳～15 歳」144 名（25%)、「16 歳～17 歳」14 名（２%)、「不明」79 名（14%）となっている。「７歳～12 歳」での入所が最も多くなっている。平均年齢は 10 歳６ヶ月となっている。

入所児の退所年齢別では、「１歳～６歳」54 名（９%)、「７歳～12 歳」88 名（15%)、「13 歳～15 歳」229 名（40%)、「16 歳～20 歳」122（21%)、「不明」87 名（15%）となっている。「13 歳～15 歳」での退所が最も多くなっている。平均年齢は 13 歳６ヶ月となっている。

入所児の在所期間別では、「１年未満」173 名（30%)、「１年～３年」200 名（34%)、「４年～９年」179 名（31%)、「10 年～16 年」19 名（３%)、「不明」９名（２%）となっている。「１年未満」が最も多くなっている。平均在所期間は、３年５ヶ月となっている。

入所児の退所先の区分では、「家庭引取り」144 名（44%)、逃走 64 名（20%)、「自立（就職・進学)」63 名（19%)、「知的障害施設」26 名（８%)、「里親」８名（２%)「児童養護施設」７名（２%)、「その他」12 名（４%）となっている。「不明（記載なし)」が 255 名となっている。

Ｂ園の第１期の入所児数は、593 名である。内訳は、男児 323 名（54%)、女児 270 名（46%）である。

入所児の入所年齢別では、「０歳～６歳」375 名（63%）、「７歳～12 歳」165 名（28%）、「13 歳～15 歳」40 名（７%）、「16 歳～17 歳」５名（１%）、「不明」８名（１%）となっている。「０歳～６歳」での入所が最も多くなっている。平均年齢は５歳５ヶ月となっている。

入所児の退所年齢別では、「０歳～６歳」212 名（36%）、「７歳～12 歳」121 名（20%）、「13 歳～15 歳」188 名（32%）、「16 歳～21 歳」64（11%）、「不明」８名（１%）となっている。「０歳～６歳」での退所が最も多くなっている。平均年齢は９歳５ヶ月となっている。

入所児の在所期間別では、「１年未満」181 名（30%）、「１年～３年」159 名（27%）、「４年～９年」176 名（30%）、「10 年～16 年」73 名（12%）、「不明」４名（１%）となっている。「１年未満」が最も多く、次いで「４年～９年」がほぼ同じとなっている。平均在所期間は、４年５ヶ月となっている。

入所児の退所先の区分では、「家庭引取り」300 名（55%）「自立（就職・進学）」145 名（27%）、「里親」17 名（３%）、「死亡」12 名（２%）、「逃走」７名（１%）、「知的障害施設」６名（１%）、「病院」４名（１%）、「児童自立支援施設」１名（０%）、「児童養護施設」１名（０%）、「その他（措置変更）」18 名（４%）となっている。「不明（記載なし）」が 32 名となっている。

(3)第２期（1968 年度～1999 年度）の入所児の概況

Ａ園の第２期の入所時数は、697 名である。内訳は、男児 394 名（57%）、女児 303 名（43%）である。

入所児の入所年齢別では、「１歳～６歳」329 名（47%）、「７歳～12 歳」264 名（38%）、「13 歳～15 歳」91 名（13%）、「16 歳～17 歳」４名（１%）、「不明」10 名（１%）となっている。「１歳～６歳」での入所が最も多くなっている。平均年齢は７歳５ヶ月となっている。

入所児の退所年齢別では、「１歳～６歳」162 名（23%）、「７歳～12 歳」206 名（30%）、「13 歳～15 歳」222 名（32%）、「16 歳～20 歳」98（14%）、「不明」10 名（１%）となっている。「13 歳～15 歳」での退所が最も多くなっている。平均年齢は 11 歳５ヶ月となっている。

入所児の在所期間別では、「１年未満」207 名（28%）、「１年～３年」246 名（45%）、「４年～９年」184 名（20%）、「10 年～16 年」61 名（７%）となっている。「１年～３年」が最も多くなっている。平均在所期間は、３年５ヶ月となっている。

入所児の退所先の区分では、「家庭引取り」425 名（66%）、「自立（就職・進学）」113 名（18%）、「里親」43 名（７%）「知的障害施設」25 名（４%）、「児童自立支援施設」13 名（２%）、「その他」18 名（３%）となっている。「不明（記載なし）」が 59 名となっている。

(3)第３期（2000 年度～2016 年度）の入所児の概況

第３期の入所時数は、209 名である。内訳は、男児 120 名（57%）、女児 89 名（43%）である。

入所児の入所年齢別では、「１歳～６歳」125 名（59%）、「７歳～12 歳」60 名（29%）、「13 歳～15 歳」19 名（９%）、「16 歳～17 歳」６名（３%）となっている。「１歳～６歳」での入所が最も多くなっている。平均年齢は６歳５ヶ月となっている。

入所児の退所年齢別では、「１歳～６歳」82 名（39%）、「７歳～12 歳」63 名（30%）、「13 歳～15 歳」17 名（８%）、「16 歳～20 歳」48（23%）となっている。「１歳～６歳」での退所が最も多くなっている。平均年齢は８歳６ヶ月となっている。

入所児の在所期間別では、「１年未満」58 名（30%）、「１年～３年」95 名（35%）、「４年～９年」42 名（26%）、「10 年～16 年」15 名（９%）となっている。「１年～３年」が最も多くなっている。

平均在所期間は、２年６ヶ月となっている。

入所児の退所先の区分では、「家庭引取り」107 名（51%）、「児童養護施設」48 名（23%）、「自立（就職・進学）」21 名（10%）、「知的障害施設」14 名（７%）、「里親」12 名（６%）、「その他」５名（２%）となっている。

Ｂ園の第２期の入所児数は、566 名である。内訳は、男児 280 名（49%）、女児 286 名（51%）である。

入所児の入所年齢別では、「０歳～６歳」349 名（63%）、「７歳～12 歳」177 名（32%）、「13 歳～15 歳」28 名（５%）、「16 歳～17 歳」２名（０%）、となっている。「０歳～６歳」での入所が最も多くなっている。平均年齢は６歳５ヶ月となっている。

入所児の退所年齢別では、「１歳～６歳」169 名（30%）、「７歳～12 歳」138 名（24%）、「13 歳～15 歳」168 名（30%）、「16 歳～19 歳」91（16%）となっている。「１歳～６歳」と「13 歳～15 歳」がほぼ同じになっている。入所して短い期間に退所するか、中学を卒業して退所するかの二分化分されている結果となっている。平均年齢は 10 歳５ヶ月となっている。

入所児の在所期間別では、「１年未満」163 名（29%）、「１年～３年」145 名（26%）、「４年～９年」153 名（27%）、「10 年～16 年」102 名（18%）となっている。「１年未満」が最も多くなっている。平均在所期間は、４年５ヶ月となっている。

入所児の退所先の区分では、「家庭引取り」362 名（64%）「自立（就職・進学）」159 名（28%）、「里親」７名（１%）、「知的障害施設」４名（１%）、「病院」４名（１%）、「その他（措置変更）」17 名（３%）となっている。「不明（記載なし）」が９名（２%）となっている。

(3)第３期（2000 年度～2016 年度）の入所児の概況

第３期の入所児数は、98 名である。内訳は、男児 56 名（57%）、女児 42 名（43%）である。

入所児の入所年齢別では、「１歳～６歳」45 名（46%）、「７歳～12 歳」41 名（41%）、「13 歳～15 歳」11 名（11%）、「16 歳～17 歳」２名（２%）となっている。「１歳～６歳」での入所が最も多くなっている。平均年齢は７歳５ヶ月となっている。

入所児の退所年齢別では、「１歳～６歳」18 名（18%）、「７歳～12 歳」35 名（36%）、「13 歳～15 歳」13 名（13%）、「16 歳～19 歳」32 名（33%）となっている。「16 歳～19 歳」での退所が最も多くなっている。平均年齢は 12 歳５ヶ月となっている。

入所児の在所期間別では、「１年未満」16 名（16%）、「１年～３年」33 名（34%）、「４年～９年」44 名（45%）、「10 年～16 年」５名（５%）となっている。「４年～９年」が最も多くなっている。平均在所期間は、４年７ヶ月となっている。

入所児の退所先の区分では、「家庭引取り」62 名（63%）、「自立（就職・進学）」21 名（22%）、「児童自立支援施設」２名（２%）、「里親」２名（２%）、「その他」７名（７%）となっている。

５．考察

本研究では、児童養護施設の時期による社会的要請と役割を明らかにすることを目的としている。約 70 年間、Ａ園の 1,485 名の入所児を分析した結果以下のような特徴が導かれた。

第１期では、入所児が「７歳～12 歳」が最も多くなっている。退所先では、逃走に続いて、自立（就職）が多くなっている。

第２期では、入所児は「１歳～６歳」が最も多くなっている。退所先で「里親」が 43 名と３番目となっている。「家庭養護センター」を設置し、里親への委託促進をはかる施策を展開した結果が表れている。

第３期では、虐待を受けた子どもの支援を中心に展開された時期である。入所の平均年齢も６歳５ヶ月とさらに低年齢となっている。退所の平均年齢も８歳６ヶ月、在所期間も２年６ヶ月と更に短くなっている。

一方、Ｂ園の 1,257 名の入所児を分析した結果以下のような特徴が導かれた。

第１期では、入所児が「０～６歳」が圧倒的に多かった。退所先では、死亡が 12 名となっており、栄養状態や医療環境の厳しさが表れていた。また割合は低いものの、里親が 17 名と、全期間における 65%を占めていた。

第２期では、入所児の退所年齢別では、「１歳～６歳」と「13 歳～15 歳」になっている入所して短い期間に退所するか、中学を卒業して退所するかの二分化される結果となっていた。

第３期では、児童虐待の防止等に関する法律が施行され、虐待を受けた子どもの入所が増加した時期である。「７歳～12 歳」の小学校年齢における入所が増加している。また、高校進学等が進む中で退所の平均年齢が 12 歳５ヶ月と高年齢化していた。

公立児童養護施設と比較すると、入所年齢や在所期間で民間児童養護施設としての特徴も把握できた。

特に公立施設の方が短期で、また高年齢での入所が多かった。一方、民間施設では入所期間が長く、公立施設と比較すると、一貫して長期的なケアが求められてきたことが分かった。

公立施設と民間施設で、社会的養護における役割は異なり、対象となる子どものニーズによる役割の棲み分けが行われてきたことが示唆された。